

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105011		
法人名	有限会社 エーアンドワイ		
事業所名	グループホーム ステーション(ユニットI)		
所在地	岡山県岡山市中区長利3番地の1		
自己評価作成日	令和2年3月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3370105011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園地の中に所在し、静かなロケーションである。また、田園地の中なので日当たりも良い。「寄り添うケア」を目指し、入居者の心身の状態やその都度変化する状況に合わせ、1日を一人一人のペースに過ごせるように、スタッフ丸となってケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日当たりの良いリビングに利用者が集い、穏やかに過ごしている。窓からは、田園や山々の様子が見え、四季の移り変わりを感じることができる。地域の保育園や見学者など、外部からの来所者も積極的に受け入れている。隣接の町内会から、敷地内の外回りの整備や、花の植え替え等のボランティアの申し出があり、来年度は利用者とともに取り組めるよう計画中である。気候の良い日には、近所を散歩したり、テラスで外気浴を行ったりしている。また、個別での外食の機会を作り外出支援をしている。職員は研修を通じ自己研鑽を重ね、利用者一人ひとりのニーズに合わせた寄り添う支援が出来るように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールに施設の方針を掲示し、いつでも見られるようにして実践している。	理念は玄関に掲示し、周知を図っている。毎年、理念に基づいた介護目標を職員とともに話し合い決めている。日々のケアの中で重要な事柄については目標として掲げ、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園の園児との交流やボランティアなどの対応を心がけている。	散歩時など日頃から地域住民とあいさつを交わっている。保育園児や秋祭りの神輿が来たり、地域の住民からのボランティアの申し出があったりと、地域交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では活かさきれていないが、可能な限り実行をして行けるように模索している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に実施し、町内会長、老人会会長、消防団長、岡山市介護保険課にも参加をお願いしている。会議にて利用者の状況を報告し、意見を聞いてサービス向上に活かしている。	老人会の会員は順番に参加してくれるため、より多くの人に事業所を理解してもらえる機会となっている。事業所での様子を報告したり、災害時の避難についての話し合いをしたりと、意見交換を行うことで、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点の質問などその都度介護保険課に協力している。保健所等にも質問している(感染症)	制度について不明点があがれば、その都度担当者に相談している。感染症対策については保健所に相談し、アドバイスをもらっている。また行政との関りから、ボランティアの申し出につながることもあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないが、転倒・転落の危険性がある場合のみベット柵を使用し、ご家族に十分説明をし、同意を得て同意書にサインをいただいている。また、転倒防止の為に足元に赤外線センサーを設置し、ご家族に同意を得ている。	研修を実施し、スピーチロックについての確認を行った。ベッドからの転倒・転落のリスクがある利用者には、家族の同意を得た上で四点柵や赤外線センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的変化の報告をして虐待防止の意識付けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、家族状況からその必要性が出てきたケースがあり、それを機会に勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際して十分に説明をし、同意を得ている。後で、疑問・質問がある場合はその都度十分な説明を行い理解を得てもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来所された際にご家族意見を聞き運営に活かしている。	面会や運営推進会議への参加時に、家族からの要望を聞いたり、事業所での様子を伝えたりしている。外出について要望があり、気候や状態に応じ対応している。	事業所での様子や取り組みを写真に撮り、家族に見てもらう機会を増やすことで、さらに、安心や信頼関係の構築に繋がることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一回は個人面談をし、意見や提案を聞く機会を設けている。	月に1~2回、ミニカンファレンスを行い、ケア方針について意見交換の機会を設け、ケアに活かしている。また、毎年個人面談を行い職員からの意見を聞く機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与・手当などがあり、その他に研修参加、資格取得の機会を与え、向上心や、やりがいを持たせている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の力量にあった研修への参加の呼び掛けし、参加した研修の内容をミーティングで発表し、勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現時点で交流はないが、今後同業者との交流をしていきたい。ケアマネの交流会への参加や、地域の他の事業所の方との情報交換。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ本人の要望を聞き、本人にあった関係づくりをし、本人に聞き取りができないときは家族から聞き取りした中で関係づくりをしていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の現在の悩みや要望を聞き施設の現状で対応できることを説明し出来るだけ協力出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランに本人・家族の必要な支援を考え、可能な援助を実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の家族に近づけるように身近な会話に気持ちを込めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に毎月便りと近況報告を送り、なかなか来所できない家族も報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・親戚の方や家族以外の来訪を快くお受けして、利用者の気分を以前のように保ってもらっている。	親族以外にも知人が面会に訪れることもある。また、お墓参りや以前勤めていた会社に行ったり、冠婚葬祭に参加したりと、馴染みの人や場との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間人間関係を理解し、仲よし同士は近く、いやな思いをする人は席を離すように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡や入院での退去となっても、ご家族や病院からの連絡が継続されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いやりの気持ちをもって利用者に穏やかで楽しい生活を過ごして頂くように援助している。カルテの中からも拾い上げられるように記載している。	日頃のケアの中で、表情や言葉から思いをくみ取る様にしている。失語症の利用者が好きなテレビ番組が始まると表情が変わるため、番組を職員も一緒に見て、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出生、生活歴、病歴、家族関係をお聞きし、サービス利用の経過も把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から過ごし方や表情・言動の変化を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の観察の中から必要時にケアプランの変更を家族に提案し、意見を聞きケアプランに活かしている。	具体的に実現可能な計画を心がけている。半年毎にモニタリングを実施し、現在の目標が利用者の状態に合っているかどうかを確認している。職員とのカンファレンスだけでなく、家族とのカンファレンスも記録に残し、ケアプランの作成に活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、月一回以上ケアマネとのカンファレンスにて個別情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々の状況の変化は毎日起こっているため、ケアプランにとらわれずサービス変更を実施し、外部への協力をも要請している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園に桜を見に出かけたり、気分転換を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所のかかりつけ医に月2回の訪問診療をお願いしている。希望のかかりつけ医の訪問診療も受けている。専門医(整形、眼科、心療内科)への受診援助。	入所前からのかかりつけ医へ受診を継続している人もいれば、入所を機に変更する人もいるが、家族と職員が協力し受診を支援している。医師に、事業所での様子を説明する際に、動画や写真を活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師と相談しながら、個々の利用者の病状に合わせて介護している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医師の指示を直接聞き、退院時には直接面会に行き、現在の状況の情報交換を看護師とし、必要時には言語聴覚士指示や指導を受けたり、情報を受けたり、相談したりしながら退院時に安心して介護が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には必ず特別養護老人ホーム等の入所の申し込みをして頂いている。また、医療面でのケアが必要になった場合は家族と十分な協議を重ね本人にとって良い方向になるようにしていく。	重度化した際の対応について説明し、入所時に特別養護老人ホームへの申し込みを依頼している。重度化した際には、家族や職員と話し合い、安心して納得した最期を迎えられるよう対応している。緩和ケア病棟へ繋げたケースもあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応の仕方を職員間で勉強し、かかりつけ医に相談しながら日常のケアの中で実践するように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を1回以上実施している。また、いざという時には近隣の自治会の支援もお願いしている。	火災訓練だけでなく水害時の避難場所についての確認も行っている。災害時に地域住民から協力が得られるよう、運営推進会議でお願いしている。備蓄もしており、非常食のシュミレーションも実施している。	消防署の職員や火災報知機の業者と一緒に避難訓練を行うことで、アドバイスや消火器具の使い方などを知り、さらに非常時の備えが確かなものになることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護の前提として、プライバシーの保護を職員に意識付けしており、トイレの使用やおむつ交換時には必ず居室のドアを閉めるようにし、○○ちゃんではなく、○○さんと呼ぶようにし利用者一人一人の尊重を心掛けている。	外部の人が見学に来所する機会があるため、利用者の名前が目につかないよう配慮したり、居室のドアを開放したままにしないように努めている。利用者の呼称について、さん付けするように、職員間で統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状況により本人の意思を確認し、日々の生活の中での会話や家族からの以前の生活の状況より、本人の希望に添えるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で利用者一人一人の生活ペースにあった援助をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添った髪型や身だしなみや服装の乱れや、汚れに注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調やその日の気分、利用者の状況に合わせてできる事を一緒に行えるようにしている。	職員が献立を考えているが、利用者の希望でファーストフード食べたり、個別で外食に行ったりすることもある。また、下ごしらえやテーブル拭きなどを利用者と一緒にし、食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況に合わせて食事の形態やカロリーや見た目などに気を付けながら食事を作っている。また、水分確保のためにお茶ゼリーをつくったり、水分量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりにあった口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声掛けをし、座位が保てる方はトイレやポータブルトイレでの排泄を当たり前としている。	日中は出来るだけトイレで排泄できるように、排泄間隔を把握し支援をしている。布パンツを使用している人も居り、一日に一回は、着替えの確認を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人で食事量や食事の形態や水分量に注意し、腹部マッサージや医師や看護師に相談しながら排便薬のアドバイスを頂き便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を基本としているが、利用者のその日の状況や気分に合わせてタイミングをみて入浴の順番や時間帯を変えて楽しんで入浴できるようにしている。	ゆっくりと入浴することを大切に、その日の利用者の様子に合わせた入浴支援をしている。入浴拒否のある人には、言葉がけを工夫し誘導している。状態によっては、清拭や足浴をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中や食後に傾眠される利用者は臥床して頂き、昼夜が逆転しないように気を付け、夜間のおむつ交換時は安眠を妨げないよう気を付け、入眠できない利用者にはお茶を飲んでもらったりして落ち着いて入眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や用法・用量を医師や薬剤師の指導のもと理解をしている。服薬時には利用者一人一人に薬を確認し、薬の変更時には職員全員が把握し、服薬後の状況を把握するように記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや得意なものを把握し、日常生活の中で取り入れ、好みの飲食物などを出るだけお聞きするようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や状況により外出ができるように努めている。	気候の良い時には、ウッドデッキで外気浴や近所を散歩し、戸外へ出る支援をしている。家族や後見人の協力により、買い物や花見、農園に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金の管理が出来る方には所持して頂いているが、ご家族の希望で所持させないように希望される場合や、利用者の状況に変化ある場合はご家族と話し合いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望を聞き、可能な限りご要望に添えるようにしている。年賀状の作成など利用者の状況に合わせて職員が協力して出せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に観葉植物や季節の花を置いて、季節感が出せるようにしている。温度調節に気を付けて気持ち良く生活して頂けるように心掛けている。	季節に応じた品物や写真を飾り、四季を感じられるように配慮している。畳の上で寛ぐ人や同じテーブルで好きな人同士が使うなど、思い思いに過ごせるよう、居心地の良い共有空間となる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで過ごされる方や居室で過ごされる方などその方の希望に添えるようにし、気の合う方同士を隣の席にしたりと、利用者が自分のペースで過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真を貼ったり、入居時には使い慣れた物を持参してもらっている。また、本人の希望に添えるようにしている。	植物、家族の写真、仏壇などなじみの物を持ち込んでいる。好きな広告や野球選手の写真を壁に貼っている人もおり、その人らしく過ごしやすい居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方や独歩の方などおられ、移動しやすいように工夫している。また、居室内でご本人が安全に自立した生活ができるようにベッドや家具の配置を考え、居室やトイレをわかりやすく表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105011		
法人名	有限会社 エーアンドワイ		
事業所名	グループホーム ステーション(ユニットⅡ)		
所在地	岡山県岡山市中区長利3番地の1		
自己評価作成日	令和2年3月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3370105011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園地の中に所在し、静かなロケーションである。また、田園地の中なので日当たりも良い。「寄り添うケア」を目指し、入居者の心身の状態やその都度変化する状況に合わせ、1日を一人一人のペースに過ごせるように、スタッフ一丸となってケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールに施設の方針を掲示し、いつでも見られるようにして実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園の園児との交流やボランティアなどの対応を心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では活かさきれていないが、可能な限り実行をして行けるように模索している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に実施し、町内会長、老人会会長、消防団長、岡山市介護保険課にも参加をお願いしている。会議にて利用者の状況を報告し、意見を聞いてサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点の質問などその都度介護保険課に協力している。保健所等にも質問している(感染症)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないが、転倒・転落の危険性がある場合のみベット柵を使用し、ご家族に十分説明をし、同意を得て同意書にサインをいただいている。また、転倒防止の為に足元に赤外線センサーを設置し、ご家族に同意を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的変化の報告をして虐待防止の意識付けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、家族状況からその必要性が出てきたケースがあり、それを機会に勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際して十分に説明をし、同意を得ている。後で、疑問・質問がある場合はその都度十分な説明を行い理解を得てもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来所された際にご家族意見を聞き運営に活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一回は個人面談をし、意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与・手当などがあり、その他に研修参加、資格取得の機会を与え、向上心や、やりがいを持たせている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の力量にあった研修への参加の呼び掛けし、参加した研修の内容をミーティングで発表し、勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現時点で交流はないが、今後同業者との交流をしていきたい。ケアマネの交流会への参加や、地域の他の事業所の方との情報交換。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ本人の要望を聞き、本人にあった関係づくりをし、本人に聞き取りができないときは家族から聞き取りした中で関係づくりをしていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の現在の悩みや要望を聞き施設の現状で対応できることを説明し出来るだけ協力出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランに本人・家族の必要な支援を考え、可能な援助を実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の家族に近づけるように身近な会話に気持ちを込めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に毎月便りと近況報告を送り、なかなか来所できない家族も報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・親戚の方や家族以外の来訪を快くお受けして、利用者の気分を以前のように保ってもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間人間関係を理解し、仲よし同士は近く、いやな思いをする人は席を離すように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡や入院での退去となっても、ご家族や病院からの連絡が継続されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いやりの気持ちをもって利用者に穏やかで楽しい生活を過ごして頂くように援助している。カルテの中からも拾い上げられるように記載している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出生、生活歴、病歴、家族関係をお聞きし、サービス利用の経過も把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から過ごし方や表情・言動の変化を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の観察の中から必要時にケアプランの変更を家族に提案し、意見を聞きケアプランに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、月一回以上ケアマネとのカンファレンスにて個別情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々の状況の変化は毎日起こっているため、ケアプランにとらわれずサービス変更を実施し、外部への協力をも要請している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園に桜を見に出かけたり、気分転換を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所のかかりつけ医に月2回の訪問診療をお願いしている。希望のかかりつけ医の訪問診療も受けている。専門医(整形、眼科、心療内科)への受診援助。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師と相談しながら、個々の利用者の病状に合わせて介護している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医師の指示を直接聞き、退院時には直接面会に行き、現在の状況の情報交換を看護師とし、必要時には言語聴覚士指示や指導を受けたり、情報を受けたり、相談したりしながら退院時に安心して介護が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には必ず特別養護老人ホーム等の入所の申し込みをして頂いている。また、医療面でのケアが必要になった場合は家族と十分な協議を重ね本人にとって良い方向になるようにしていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応の仕方を職員間で勉強し、かかりつけ医に相談しながら日常のケアの中で実践するように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を1回以上実施している。また、いざという時には近隣の自治会の支援もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護の前提として、プライバシーの保護を職員に意識付けしており、トイレの使用やおむつ交換時には必ず居室のドアを閉めるようにし、○○ちゃんではなく、○○さんと呼ぶようにし利用者一人一人の尊重を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状況により本人の意思を確認し、日々の生活の中での会話や家族からの以前の生活の状況より、本人の希望に添えるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で利用者一人一人の生活ペースにあった援助をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添った髪型や身だしなみや服装の乱れや、汚れに注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調やその日の気分、利用者の状況に合わせてできる事を一緒に行えるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況に合わせて食事の形態やカロリーや見た目などに気を付けながら食事を作っている。また、水分確保のためにお茶ゼリーをつくったり、水分量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりにあった口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声掛けをし、座位が保てる方はトイレやポータブルトイレでの排泄を当たり前としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人で食事量や食事の形態や水分量に注意し、腹部マッサージや医師や看護師に相談しながら排便薬のアドバイスを頂き便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を基本としているが、利用者のその日の状況や気分に合わせてタイミングをみて入浴の順番や時間帯を変えて楽しんで入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中や食後に傾眠される利用者は臥床して頂き、昼夜が逆転しないように気を付け、夜間のおむつ交換時は安眠を妨げないよう気を付け、入眠できない利用者にはお茶を飲んでもらったりして落ち着いて入眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や用法・用量を医師や薬剤師の指導のもと理解をしている。服薬時には利用者一人一人に薬を確認し、薬の変更時には職員全員が把握し、服薬後の状況を把握するように記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや得意なものを把握し、日常生活の中で取り入れ、好みの飲食物などを出来るだけお聞きするようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や状況により外出ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金の管理が出来る方には所持して頂いているが、ご家族の希望で所持させないように希望される場合や、利用者の状況に変化ある場合はご家族と話し合いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望を聞き、可能な限りご要望に添えるようにしている。年賀状の作成など利用者の状況に合わせて職員が協力して出せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に観葉植物や季節の花を置いて、季節感が出せるようにしている。温度調節に気を付けて気持ち良く生活して頂けるように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで過ごされる方や居室で過ごされる方などその方の希望に添えるようにし、気の合う方同士を隣の席にしたりと、利用者が自分のペースで過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真を貼ったり、入居時には使い慣れた物を持参してもらっている。また、本人の希望に添えるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方や独歩の方などおられ、移動しやすいように工夫している。また、居室内でご本人が安全に自立した生活ができるようにベッドや家具の配置を考え、居室やトイレをわかりやすく表示している。		